



鹿児島教区司教 中野裕明

を導いて真理をことごとく語らせる」(曰ハネ

なたがたは間もなく聖霊による先礼を受けられる

会の中で、働いておられます。問題は、聖霊によ

「たがたが考えているように、
から、この人たちはあな

従つて生きる人生でありますように。

※着任はいずれも6月18日



ったことから鹿児島教区の門を叩いた丸野神父は、教区入籍（2010年8月）後はザビエル教会や玉里教会、垂水教会で司牧に従事した。2020年からは、教区本部付きとなり本部近くの集合住宅に居住していたが、体力の衰え等のため一人での生活が困難となり、今年4月から教区本部に居を移していた。

その丸野神父の通夜は5月20日（土）に、葬儀ミサと告別式は翌21日（日）、どちらもザビエル教会で執り行われた。

葬儀ミサを司式し説教した中野司教は、丸野神父のこれまでの歴史を振り返った上で、修道会とは違うシ

ステムで働くことになった丸野神父が教区に溶け込もうとして苦勞し、もがいていたことを紹介。その苦しむ丸野神父のためには、特に同居することになってからは司教自身が「丸野神父にとつて善きサマリヤ人にならなければならない」ことを痛感させてもらった、と胸の内を話した。

ミサ後の告別式では、司祭団を代表して丸野神父の相談役になっていた末吉神父が、また信徒を代表してザビエル教会所屬の山口寛子さんが弔辞を述べた。

丸野六雄神父の遺骨は、その日のうちにカトリック唐湊墓地の司祭の墓に納められた。

教区各地でロザリオの祈りの集い

シノドスを祈りのうちに準備し支える

5月31日（水）18時から教区内各地でロザリオの祈りの集いが開かれた。この集いはローマのシノドス事務局が呼びかけたもので、今年の10月から始まるシノドス第16回通常総会を祈りのうちに準備するのが目的。鹿兒島教区では、ザビエル教会、鹿屋教会、川内教会、古田町教会、母間教会に信者が集まり、熱心に祈りをささげた。



ザビエル教会での集い

た。出席者は司祭、修道者、信徒など20人ほどだった。また川内教会には、阿久根からの修道女や信徒も駆けつけ、約20人で祈りをささげた。



川内教会での様子



母間教会での集い

徳之島（母間教会）
聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています。
5月31日（水）午後6時から、教区一斉にロザリオの祈りが始まりました。お祈り後、母間教会ではごミサがさげられました。この日は「聖母の訪問の祝日」に全世界の聖母の巡礼地、各教区の聖母にさげられた教会で「シノドス」の成功のために祈る特別の日でした。
わたしたち徳之島では毎月第1日曜日、午後1時半

から婦人会の定例会です。ロザリオの祈りで始まり、教会の行事などについて、また婦人会としての役割などいろいろなことを話し合い、親睦を図ります。またとお茶タイムも楽しみの一つです。
5月7日（日）の会では婦人会長から「5月31日は特別な祈りをささげる日です。聖母の訪問とシノドスのために祈ります」という

+KABAYAN SEKSIYON+ Espiritualidad ng Kasal at Pamilya

Sa pagtatapos ng Kagalakan ng Pag-ibig sinasabi ni Papa Francisco na “ang espiritwalidad ng pag-ibig sa pamilya ay binubuo ng libu-libong maliliit ngunit mga totoong pahiwatig”; tunay na “nananahan ang Panginoon sa mga pamilya kasama na ang kanilang mga problema, pagsisikap, kagalakan, at pagrasa sa araw-araw” (315).
Ang tunay na espiritwalidad ay “nagiging totoong-totoo sa komunyong o pagkakaisa ng pamilya” (316)
Para sa Santo Papa, lahat ng “mga pagkakataon ng kagalakan, pagsasaya, pagdiriwang at maging ang sekswalidad ay maaaring maging karanasan ng pakikibahagi sa ganap na buhay ng muling pagkabuhay”(317).
Hinihikayat ng Papa ang “panalangin ng pamilya [bilang] espesyal na pagpapahayag at pagpapalakas” ng pananampala taya(318). “Ang lahat ng buhay-pamilya ay isang mahabagang ‘pagpapastol.’ Bawat isa sa atin, sa pamamagitan ng pagmamahal, at pagkalinga natin ay nag-iwan ng tatak sa buhay ng ibang tao” (322).
Sa panghuling talata binibigyan-diin ni Papa Francisco, “Walang pamilyang bumaba mula sa langit na perpekto na; kailangan ng lahat ng pamilya na lumago at maging ganap sa kakayahan nilang magmahal.
Walang katapusan ang bokasyon nilang ito...Tahakin natin ang paglalakbay na ito bilang mga pamilya; maglakbay tayong sama-sama” (325). Banal na Pamilya ng Nazaret, lumapit kami sa inyo; gabayan mo kami sa daan; ipanalangin ninyo kami.
Sa pamamagitan ng ipinakitang halimbawa ng Pamilya ng Nazaret, sana lahat ng mga pamilyang Kristiyano, ay matuto rin mabuhay tulad ng Pamilya ng Nazaret: na may kapakumbabaan, simpleng pamumuhay at higit sa lahat nagpupuri sa Diyos.

Ang Parokya: Pakikipag-isa ng mga Komunidad
(Fr.Dino Orolfo)

イグナチオの霊操①

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥



ローマでは二つの勉強を終えてきました。一つは養成者のためのコースで、二つ目が「イグナチオの霊性」についてです。
一つ目の養成者のためのコースは自分の希望ではありませんでした。申請するときには霊性神学を希望するというを書いたのですが、なぜかこのコースに入れられていました。
イエスさまが、私によく行うことで、自分の希望とは別のことを無理にやらせるという愛情です。最初はいいやでしたが、終わってみると霊性神学を学び深める意味でも、自分の人間的成長にとってもなくてはならないものでした。必ず私のために最善を尽くされる主の強い愛です。

今回は「霊操について何か書くよう」に教区本部の山下真二さんに頼まれたので霊操を中心に体験したことを書かせてもらおうと思います。何回続くかは分かりませんが、よろしくお願いします。

霊操とは？

霊操の意味は「霊操一」に書かれているとおり、「霊操とは、良心の糾明、黙想、観想、口祷と念祷のあらゆる方法を意味する。散歩したり歩いたり走ったりするのを体操と言うが、同じように、霊魂を準備し整えるあらゆる方法を霊操と言うのである。その目的は、まず、乱れた愛着を棄てることであり、その後、霊魂のたすかりのために、自分の生活を整えるうえで神のみ旨を探し、確かめること」です。

霊操の中では、まず「乱れた愛着」を見つけ出し、それを棄てていくことに焦点が置かれます。

「乱れた」というのは「整っていない」状態のことを、霊操の中では意味します。それは人間の造られた目的に「整えられていない」状態です。

人間の造られた目的は「霊操二十三」の「原理と基礎」に書かれています。「人間が造られたのは、主なる神を賛美し、敬い、仕えるため」であります。この目的へと「整えられていない」状態が「乱れている」ということです。その後に、「神のみ旨を探し、確かめる」ために霊操が進められます。

「霊操」はテキストで学ぶものでも、霊的な読書となるものでもありません。体験されるものです。ここでは、少しでも、ザビエルに大きな影響を与えたイグナチオの霊性に触れていけたいと思っています。この一回で終わらないように頑張ります。

1 「霊操」聖イグナチオ・デ・ロヨラ ホセ・ミゲル・パラ訳



鹿屋教会のロザリオの集い



古田町教会での集い

詳しい説明がありました。当日の夕方、時間に間に合わず家庭で、個々で祈られた方もいらつしやいましたが、共同体が一つになり心を一致させて、目的を持ってお祈りできたことが嬉しく感じられました。

（報告・順秀子）

短信

▼カトリック教師の会
6月11日（日）15時から教区本部を会場として、オンライン参加者も含めて7人が参加して開催された。「カトリック教師としての座右の書」をテーマに参加者同士が本を紹介しあい、分かち合いを通して、教育の仕事に信仰の視点から生き生きとさせる工夫を感じ取っていた。
次回は8月の予定。

ベルナルディーノ神父の銀祝を祝う 中野司教と鹿屋教会の信者たち

昨年末から銀祝（司祭叙階25周年）の休暇でフィリピンに帰国していたベルナルディーノ・オローフォ神父（60歳）が5月26日（金）帰国し、28日（日）前任地となる鹿屋教会（現在グエン・フン・タム神父主任司教）で中野司教とともにミサをささげた。

この日のミサは、ベルナルディーノ神父の司祭叙階25周年を記念するとともに、次の任地（志布志教会）への辞令を交付するた

めで、ベルナルディーノ神父の銀祝と送別のために多くの信者が駆けつけた。

1963年に生を受けたベルナルディーノ神父は、1998年5月17日に高松



第14回日本カトリック障害者連絡協議会長崎全国大会

テーマ：ともに…つんのうで！（長崎弁で「一緒に行こう」という意味）

と き：2023年10月14日（土）、15日（日）

会 場：長崎純心大学（長崎市三ツ山町235番地）

参加費：2,000円（ライブ配信参加者は1,000円※高校生以下無料）懇親会参加費：2,000円

※10月14日（土）10時30分受付～15日（日）13時解散

・参加申込書、分科会の案内は各小教区にお問い合わせください。

・申込締切は8月6日（日）

申込先は以下の通り

パッションの会（カトリック谷山教会事務所内）

〒891-0113 鹿児島市東谷山2丁目33-13

TEL099-268-2084

カリタス鹿児島から

5月30日（火）カリタス鹿児島では教区本部で会議を開き、トルコ南東部地震被災者のための支援として、カリタスジャパンに40万円を送ることを決めた。

また依然として戦火にさらされているウクライナ支援のためにも、避難民たちの助け手となっているカノッサ修道女会とレデンプトール宣教修道女会にそれぞれ30万円ずつを送金することを決め、6月初めに実行された。



会場には約70人が足を運んだ

会 と 催 し		7月
1日（土）	福者ベトロ岐部と187殉教者	
2日（日）	年間第13主日	
3日（月）	聖トマ使徒	
4日（火）	みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時	
9日（日）	▽栃尾泰英神父叙階記念（1993年）	
11日（火）	年間第14主日	
12日（水）	教区司祭会・教区本部・16時30分	
14日（金）	▽坂谷豊光神父命日（2006年）	
16日（日）	▽朴鎮亮霊名（聖ベネディクト）	
17日（月）	中野アカデミー・教区本部・14時	
18日（火）	村田源次神父命日（2007年）	
21日（金）	年間第15主日	
22日（土）	玉里教会発足50周年記念・10時	
23日（日）	ハヌス神父命日（2022年）	
23日（日）	ユゼビウス神父命日（1979年）	
23日（日）	聖マリア（マグダラ）	
23日（日）	▽木村敏彦神父命日（2008年）	
23日（日）	年間第16主日	
23日（日）	▽祖父母と高齢者のための世界祈願日	

これは1708年10月に日本でのキリスト教布教のために屋久島に上陸し捕縛され、その後、江戸のキリシタン屋敷で身の回りの世話をしていた長助・ハルに洗礼を授けたために衰弱死したイタリア人司祭ジョバニ・パチスタ・シドティ神父の功績を多くの人に知らせようというもの。また黎明館では遺骨から複製されたシドティ神父の「復顔像」なども展示（5月30日～6月25日）された。

古居さんは講演でシドティ神父の遺産の数々を、中野司教は宗教者としての立場からシドティ神父の功績を、またもう一人のパネラー田村省三（前尚古集成館館長）さんは、シドティ神父の働きが薩摩で生かされたことを紹介した。



「やもめの献金」については以前お話ししたと思います（2012年12月）。その時には金額の多寡が問題となっていたのではないという説明をしました。この話は意外にもカインとアベルの話を下敷きにしたものかもしれません。彼等二人が神様に献げ物をしたという話は皆さんご存知かと思われそうですので概略は省くことにします。

さて、主なる神は「アベルの献げ物に目を留められたが、カインとその献げ物には目を留められなかった。」

《康由神父の聖書教室》64

献げ物の価値について

てみたいと思います。

カインという名前には「槍」という意味があります。『わたし（エバ）は主によって男子（カイン）を得た』と言った。という記述

から「所有」、「入手」を意味するという説もあります（創世記4・1）。これに対してアベルという名には「つまらないう」と「虚しいこと」という意味があります。

味があります。

であればこの二人の名前を通じて、持つ者と持たざる者が対比されているとも考えられます。

カインが土の実りを主への

祈りの意向

【司教日程】5月6日常任司教委員会（東京）、11日教区司祭会、12日中野アカデミー、15日東京、17日玉里教会、18日臨時司教総会（東京）、26日27日幼保連盟研修会

【祈禱の使徒会】

教 皇 聖体を中心に据えた生活

日本の教会 家族の絆

世界祈禱日を終えて

紫原教会 世界祈禱日担当

6月1日（木）午後2時から、紫原教会で2023年の世界祈禱集会が行われました。これまで毎年3月の第1金曜日に行われていましたが、コロナ禍のためしばらくの間、各教会での開催となっていました。

5月の初めにコロナが5類に移行したことを受け、今年の当番教会である紫原教会で、久しぶりに皆が集まることができました。鹿児島市内のカトリック、プロテスタントの教会に呼びかけるところ、九つの教会から45人の参加がありました。

今年のテーマは、台湾の女性たちの声で「あなたがたの信仰について聞いています」（エフェソ1・15）でした。

祈りや朗読は各教会が分担し、賛美や礼拝の歌を歌いながら進められました。聖書朗読後、当教会の主任司祭・貴島神父さまの講話に聴き入りました。カトリック、プロテスタントが一緒に祈りたことを受け、今年もそのままたの御父のものと響いていくようでした。最後に、各教会ごとの紹介があり、親しみが増しました。

「世界祈禱日は、多様なキリスト教の伝統を共有するキリスト者女性により、1887年にアメリカの女性たちが移住者や抑圧されている人々を覚えて始めました。2度の世界大戦の経験から、地球規模の視野を持つて和解と平和を求める祈りによる世界的な運動に発展しました。毎年3月第1金曜日を中心に、テーマにそって祈りあい、世界的なネットワークをもつ女性たちと祈りと行動を続けています。世界祈禱日の献金は、世界祈禱日国際委員会（WDPIC）を通して式文作成国や国内外の女性たちの働きのために使われます」（世界祈禱日2023冊子より）

今回の集会には4人の男性の参加がありました。参加者の1人の男性から、祈りの内容、神父の話、とても充実したものでしたと声をかけてもらいました。互いの理解と共感と連帯を深めていくこの貴重な集

性を1月の「キリスト教一致祈禱集会」と共に大切にしたいことを確認して散会しました。

世界祈禱日に集まった献金について去年の報告は、6,879,379円でした。献金先のリストも35か所明記されています。ちな

修女連研修で共同体を学ぶ

レデンプトール宣教修道女会 安藤 克子

6月4日（日）の三位一体の主日に午前10時から、久しぶりの対面による鹿児島教区修道女連盟の総会・研修会が教区本部2階会議室で開催された。

参加したのは鹿児島地区の修道女65人のうち43人。（聖血礼拝修道会の姉妹は、来場できず祈りで参加）。

総会後10時30分からは永山幸弘神父様（鹿児島教区司祭）を講師にお迎えして「共同体をともに生きる」のテーマ（テーマ）のお話を聞いた。神父様は第2バチカン公会議の公文書から「教会憲章」（特に1〜8

章）と「現代世界憲章」を取り上げられた。

修道生活における三誓願については、従来そのものの捉え方ではなく、基本的人権（人格・尊敬・尊厳など）が取り上げられていること。公文書によく掲げられている用語として共同体の交わり、奉仕、対話、団体的性、多様性、補完性の原理があるから、第6章の「修道者について」の共同体の概念にあっても大きな影響を受けるのは当然であると話された。

また「なぜ共同体なのか」については父・子・聖霊の三位一体の生命につながっていないならば、三位一体を根本におかなければ一般的な世俗的な共同体となってしまう。神は共同体としてご自分の似姿として男と女を創造された（創世記26）のであり、人間は自

分自身を与えるよう創られているから、修道会の修道会員共同体として「誠実さ」が第1であると強調された。

午後からの第2講話「霊性とは」（イエスの理想として神の聖心を生きて、生き抜くこと）、「神の聖性」「イエスの聖性」（神を見る形としてくださった神）「修道者としての聖性」をヨハネ14章から15章、レビ記19章、ローマ書14章を参照して話された。

14時半からは中野司教様、永山神父様、小隈神父様（修道女連盟の顧問司祭）による共同司式ミサが、ザビエル教会聖堂であり総会・研修会を締めくくった。常に祈りとともに数々のご配慮をくださっておられる皆様にごこころから感謝。

ヨゼフ・ムイベルガ神父メモリアル・コンサート

～音楽を愛し、音楽の力を信じた神父を偲んで～

日時：7月23日（日）14時開演

場所：カトリック谷山教会聖堂 =入場無料=

W.A.モーツァルト作曲

・涙の日（Lacrymosa）-レクイエムK.626より

・戴冠ミサK.317（全曲）

・Sancta Maria,mater Dei K.273

・Ave Verum Corpus K.618

ヨゼフ・ムイベルガ・メモリアル・オーケストラ

ヨゼフ・ムイベルガ・メモリアル合唱団（カトリック谷山教会

聖アルフォンソ合唱団、ザビエル教会聖歌隊有志、他）

※駐車場が狭いため、できるだけ公共交通機関でおいください。

連絡先：後藤正道（団長）masagoto1054@gmail.com



要理

ましよう。

私たちは特徴的な歴史観があります。それは始まりがあつて終わりがあつてという

直線的なものです。「始まり」とは創造で「終わり」とは神の国の完成です。神様は愛をもつてこの地上を創られたのですから、その終わりは神様の愛が満ちることによって結ばれます。このことを図解してみました。この

「始まり」と「終わり」について

私たちの信仰について学ぶにあたって全体像を把握しておくことが重要です。それは共に神様の愛に支えられ、イエス様に導かれ、そして聖霊に息吹かされながら終末に向けて歩み続けるように招かれているということを意味します。

神様の他に始めもなく終わりもないものはありません。これが神様は永遠であるということです。であればこの地上の存在すべては常に神様の御前になることとなります。だからこそ私たちは神様のことを心に

留めておく必要があります。この図表と共に私たちの信仰をこれから学んでいきましよう。決して難しいことはありません。神様の愛を理解したのでしたらきつと納得できるはずです。

